

第 38 回 東海村地域公共交通会議 会議録

【日 時】	令和 7 年 6 月 20 日(金) 10 時 00 分～11 時 30 分
【場 所】	東海村役場原子力視察研修室
【出席者委員】	出席 18 名(うち代理 1 名)／欠席 4 名

1. 開会

2. あいさつ

○萩谷会長

本日はご多忙の中、「第 38 回 東海村地域公共交通会議」にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は、本年度最初の会議となります。委員の皆様におかれましては、昨年度から引き続きご参画いただいている方々に加え、ご異動等により新たに 5 名の委員をお迎えしております。新たな体制のもと、東海村の公共交通の充実に向けて実りある議論ができますことを、心より期待しております。

ご承知のとおり、近年、全国の地域公共交通を取り巻く環境は大きく変化しております。高齢化の進行や免許返納の増加、さらに運転手の確保が困難になるなど、地域交通の維持そのものが大きな課題となっております。また、高齢化などにより移動需要が高まる一方で、多様な生活スタイルに対応した柔軟な交通サービスの必要性が高まっております。

そうした中、村では地域のニーズに応える取り組みの一環として、本年 1 月より、デマンドタクシー「あいのりくん」に AI 配車システムを導入いたしました。限られた資源で効率的な運行を行うための取り組みであり、本日の会議では、その導入後の運行実績や効果についてご報告させていただきます。先進技術の活用を通じて、より利便性の高い移動環境の実現を目指しております。さらに、本年度は「東海村地域公共交通計画」を新たに策定する節目の年でもあります。本計画は、今後 5 年間の公共交通の方針を定める重要なものであり、地域住民の声を反映しながら、持続可能で誰もが安心して利用できる交通体系の構築を目指してまいります。委員の皆様には、それぞれの立場からご意見・ご助言を賜りながら、共に計画づくりを進めてまいりたいと存じます。

そのほか、今年度実証実験を予定している「デイスサービス共同送迎事業」のご報告や国庫補助事業活用のため、地域内フィーダー系統確保維持計画の審議を議題としております。

本日はどうぞ、活発なご議論をよろしくお願いいたします。

3. 報告 (1)公共交通の利用状況について(デマンドタクシーAI 配車システムの導入効果について)

事務局から配付資料「茨城交通(株)路線バス年度別利用実績」「デマンドタクシー「あいのりくん」利用実績について(AI 配車システムの導入効果について)」に基づき説明。

(補足等)

【遠藤委員】

コロナ禍明け、少しずつ利用が増えてきたところだが、令和 6 年度通年で見ると、結果的に若干減少の前年比で 99.7%という結果になった。令和 6 年 3 月に運賃の値上げをさせていただき、令和 6 年 4 月からは昨今の運転手不足で減便をさせていただいたという環境の中では、なんとか利用者へのご不便を最低限に抑えて、利用者の数を維持できているという評価ができる一方で、まだまだ利便性をどうやったら上げられるのかというところを、いろいろと考えていかなければならないと思う。令和 6 年度を月次で見ると、11 月 12 月以降の落ち込みが少し大きくなっている傾向で、時間帯で見ると、朝はそれほど減っていないが、昼間の時間が少し利用が落ち込んでいるような傾向も見える。時間を待たずに乗れるデマンドタクシーの利用と、時間が読めるバスの利用で、村民にとって利用しやすいほうを選んでいる傾向がひょっとしたら、この数字出てるのかなと思っている。引き続き、バスの利便性を少しでも上げられるように状況を見ながら必要な対策を取ってまいりたいと思う。

【舛井委員】

令和 7 年 4 月より東海駅構内ハイヤー組合にデマンドタクシーあいのりくんが直接委託になった。オペレーターなどの福利厚生などを管理するために、一般社団法人東海駅構内ハイヤー協会と組織化をし、設置した。

説明があったとおり、今年 1 月から AI 配車のデマンドデマンドタクシーが始まり、スタート直後は、車が来ない、乗ったはいいが遠回りしているなど、クレームが多くあった。本当に 1 カ月から 2 カ月はオペレーター、ドライバーともども大変だったと思う。ただ、最近では連絡してすぐに予約が取れ、時間通りに来てくれるなど、時間の誤差もよほどのことがない限りないので好評をいただいている。一方、ドライバーにおいては、AI 配車は容赦なく、次のお客さんを迎えに行くよう指示が来る。本当に大変だと思う。指示時間に沿って、ドライバーが苦勞しながら調整して運行しており、AI 配車の学習をドライバーは首を長くして待って期待している。皆様からのねぎらいの言葉があると励みになると思うのでよろしくお願いします。

(質疑応答)

【小菅委員】

こういったデータ分析があることによって、定量的な数字がわかるので、引き続きデータのご提供いただければと思う。AI 配車システムによって、利用者が順調に伸びているということは、説明で分かった。AI 配車システムが好調であるにもかかわらず、地元交通事業者の収益を圧迫するような形になってしまうと、事業者の疲弊にもつながりかねない部分なので、その辺のバランスを見ながら今後検討していくのも必要なのかなというふうに思ったところである。

【遠藤委員】

朝夕は、通勤目的で比較的電車との接続というところのご利用がメインなので、時間が見える路線バスの利用というところで皆さん選択されていると思う。日中の減少については、一部流れているところはあるとは思いますが、全てデマンドの影響とも思わないので、その辺は今後分析をさせていただき、また改めてこの場でご報告できればと思う。

【舛井委員】

東海村のタクシーとしては、棲み分けができていて、一般タクシーも結構動いていて、あいのりくんが忙しいときは、一般タクシーを頼んでいただいている。私たちが感謝しているところである。あと、この仕事を委託していただいていることが、私たちにとってはやっぱり一番ありがたいこと。本当にすみ分けと相乗効果は生んでいると思う

【事務局】

先日ハイヤー協会と今後のデマンド事業の拡充について打合せした中で、民業圧迫の話は出ていた。今後、AI配車システムの実績を見ながら交通事業者と距離を近く保ちつつ、情報共有をしながら検討していきたいと考えている。

【山田委員】

即時予約はどのくらいの割合か。このデータを利用者にフィードバックすることで、ピーク時間の分散に繋がり、偏り解消の方策になると思う。

【事務局】

即時予約の割合は今手元にないが、やはり 30 分間隔の運行という以前のルールから、即時予約ができるようになったということで、利便性向上により、数値は日に日に伸びてきているという状況。データのフィードバックは今後考えていく。

【松本委員】

事前予約と即時予約での待ち時間に差がある理由は。

【舛井委員】

予約が埋まった状態で即時予約が入るため。タイミングが合えばすぐ来るが、入れない時は時間が少しかかる。

【松本委員】

この待ち時間は、一体どれぐらいが適切な時間と考えて調整していくのか。

【舛井委員】

利用者のピークタイムを見ながらドライバーシフトを調整していく。

【松本委員】

路線バスで気になっているのは、フローレスタ須和間線が令和 6 年度に大きく減っている。減ってる理由は。

【遠藤委員】

令和 6 年 4 月から朝夕のダイヤを減便したことが要因。2024 問題で、運転手の休憩時間を従来よりも長く取らせなければいけないというルール変更があり、どうしても朝の早い時間、あるいは夜の遅い時間を少し削らざるを得ない状況だった。その影響で JR 線の駅への接続部分で時間が合わなくて利用できないという方が一定数いらっしゃるのかなというふうに見ている。

(2) デイサービス共同送迎事業について

白石委員から配付資料に基づき説明。

(質疑応答)

【小菅委員】

この事業は国の補助金や県の補助金を活用するのか。

【白石委員】

新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジタル実装型)。

【小菅委員】

道路運送法上、今回は無償なので問題ないが、実証後の次のステップで、どういうふうに行っていくかは、青ナンバーにした形で一定程度の収入を得ることが想定される。そうすると、道路運送法上の許認可が必要になるので、その辺は内閣府と法令に抵触しないような形で進めてほしい。

【白石委員】

当然国の交付金が入るので、要件に合致した運行になる。継続可能な事業にするために1カ月間の実証実験の結果をしっかりと見ていきたい。

【山田委員】

道路運送法上のどこに位置付けられるのかがよく見えない説明だったが、今すでに介護施設が白ナンバーで送迎している方々のルート上の話なのか、あるいは途中に買い物等で寄道するのか。国の通達の中でそれを認める方向となっている、ガソリン代も利用者から寄道分をもらっても良いと。そこにハイヤー協会さんが送迎に加われば、ハイヤー協会さんの取り分にもなるわけで、そういう意味では、地元のタクシー会社さんを支援する政策として公共交通政策の一環として位置付けるっていう意味も出てくると思う。

【白石委員】

この実証実験は、白ナンバーで2種免許の方にまずはやっていただくが、これがきちんと実装されると、福祉有償運送ということで、運送の形態が変わってくる。舩井会長と調整はしており、実証実験の場合には、車両を今のイメージでは4台ぐらい、リースという形でタクシー会社との委託の中でお願いすることを想定している。

【小菅】

車両の調達に係る費用は、内閣府の方ときちんと整理していただいた方がと思う。

### (3)東海村地域公共交通計画の策定について

事務局から配付資料「地域公共交通計画の策定について」に基づき説明。

(質疑応答)

【小菅委員】

交通計画を策定するにあたり、ワークショップを行うとのことだが、委員の理解度はそんなに高くないのではと思っている。時間と労力ばかりかかってしまう。委員から意見が出ないことが想

定される。よくあるケースは、委員の方は最終的なオーソライズを取るだけであって、作り込みに関しては、地区ごとのワークショップを開いた上で、その上部機関であるこの協議会の中に諮るやり方が一般的。

【事務局】

前回までの計画については、事務局でほぼ作った上で、最後にこの会議で審議いただくスタイルを取っていたが、今回は、それぞれ立場によって背景が異なるとは承知しているが、こういう風になったらいいよねとか、そういった意見を頂いて、その上で事務局で作り上げるスタイルを取らせていただければなと思っている。知識あるなしにかかわらず、こういう方が便利だよなっというような、アウトプットの時間を一度設けたいというのが趣旨。

【小菅】

その形式であれば、アンケート形式でも良いのでは。

【事務局】

委員さんがその方がいいということであればそれでもいいが、我々の思いとしては、皆さんの思いを一度いただきたいというのが趣旨。

【山田委員】

今年の春に国交省から地域公共交通計画のアップデートガイダンスが出ているので、大事なところは何か押さえていただいた方がいいのかなと思う。

4. 議題 地域内フィーダー系統確保維持計画について ⇒了承

事務局から配付資料「地域内フィーダー系統確保維持計画(案)」に基づき説明。

5. その他① 中学3年生(相当)に対するリーフレットの配布(令和7年度)計画

事務局から配付資料に基づき説明。

その他② 地域公共交通経営改善支援事業費補助金について

茨城県交通政策課から配付資料に基づき説明。

その他③ 「交通空白」の解消等に向けた地域交通のリ・デザインの全面展開関連予算

茨城運輸支局から配付資料に基づき説明。

6. 閉 会